

3459 地球のかおり 「青の世界」：状況と心模様①

南半球、オーストラリアの大自然。この大陸の魅力は^{ふところ}懐の深さ。
オーストラリア大陸、西南部に位置するパースが、今回の旅の出発地。まず、北上を開始。
片道約 900km、西北端にあるエクスマウスをめざした。

赤道に近いノーザンテリトリー準州は、蒸し暑く高温多湿地帯。
そこから、北北東に進路をとり、オーストラリア中央部の最北端のダーウィンへ。
地上移動、往復 6,000km のひとり旅。
日本の最南端から最北端までを往復したようなもの。
北半球を出発したのは 11 月。12 月後半に無事帰国。その途上での遭遇。

山も湖もほとんどない。実に大味。実に広大ではあるが、
見るものに変化が少ない、のが不満。しかし、私の好奇心をくすぐる対象が一杯ある。
先入観なしで、視点を変えると実に面白い。延々と地平線までつづく一本道。
少し内陸に入ると、赤茶けた地道は、砂地のようにすべる。

行き交う人は全くない。行き交うのは、ガソリン車や業務トラック。
それすら珍しい。この広大な大陸にいるという貴重な事実。広大さに度肝を抜かれた。
大自然を前にしていかに人間が無力か、小さな存在かを自覚さされる。

十分なエネルギーを持っているつもりだが追いつかない気配。頭の中と体感とは、全く違う。
この旅は自分を鍛える、修行のような旅になりそうだ。
同時に意外な自己発見が出来るかも知れない。常に人生に対してプラス思考。

函館から京都まで、九州・鹿児島から京都まで、中山道 69 次、京都から東京・日本橋、
帰路は東海道 53 次京都まで。いずれもママチャリ自転車。
普通とは？ グローバル、世界と交流、着眼と視点、一工夫も二工夫も…

北北東に進路をとった時から、熱帯性気候帯。すでに真っ黒に日焼けしている。

顔色や肌色が元に戻るだろうか、シミにならないかは後日談。

日焼け薬の効果があったのか、ヒリヒリ感は和らぎ、しかし、慣れるまでが大変だった。

一難去ってまた一難。水の問題や給油箇所の距離が想定外。

閉店時間も早いときている。街灯など全くない。夜道に何が出現するかわからない。

アウトバックの地道走行は、砂地を走るようで、止まると問題が発生。

反面、カンガルーなどの動物との遭遇は楽しい。

飛行機で移動する旅では、決して味わえない体験。カンガルーは、日没近くに出現。

宿も決めていない。街の灯りちらちらとはいかない。街灯など勿論ない。

まさに闇。先人が月や星を頼りにしたのが実感できる。

夜道に日が暮れないが、道に迷うと戻れないのではないか。このエリアで、

行方不明者が多いのも納得。

天候や気温も違う。急変もする。まさに未体験ゾーン。

どうしてもダーウインへ行く用事もない。しかし、変なこだわりが頭をもたげる。

厳しくとも引き返す選択肢はない。一度決めたら初志貫徹。

この制約下で、いかに旅を楽しく続けるか。旅と人生、共通点がある。

日本の四季や色彩がなんと素晴らしいものか。心まで豊かにしてくれる。なごませてくれる。

当たり前と見過ごし、意識していなかったことを再認識。

澄んだ水、澄んだ空気、水と木と緑の国、日本。山には樹木がいっぱい、

水がろ過される。何よりも色が多彩。

石灰石が解けたエメラルドグリーンやコバルトブルー。ノーザンテリトリーに来て、

日本と比較するには無理がある。日本の素晴らしさを再認識した次第。

山はみどり、野に花、人にはころろ

素敵なものがないわけではない。楽しいのは、広々とした空や海、赤道も近く、雲も実に面白い。ブルーとホワイト、大好きな色である。そして、思わぬ色彩が加わってくるかもしれない。

それは「光」 光は、色を創る芸術家。水は赤色を吸収し、青色を反射し。際立たせる。刻々と変化する夜明けや夕暮れ、その微妙な光の変化は、私の関心の的。やわらかい光、かたい光。

心の余裕も大きな要素。あまりこだわらず、気持ちを空にする。成果など考える必要はない。心楽しいことをやる。物事に気づくのは、知識でなく、感性。見えないものが見られるかもしれない。

そんなリラックスした心境で、この旅を覚悟した。希望を持つと失望が待っている。期待して期待しない。なかなか難しいが、そんな思いで、旅を続けている。実に贅沢な話である。



本題に戻りたい。
この作品の向こうに広がるのは、インド洋！